

讃岐香川の様々な文化発展を応援します。

文化通心

B U N K A T S U S H I N

2020春 No.105



月に一度の喫茶室

財団の茶室をゆっくり体験していただくために始めて、18年。広間にテーブルをだしてお友達と季節のランチを楽しんで、小間や立礼席のお茶席が空いたら適当に交代で入る。時間に追われずにそれぞれのペース。茶の湯を知らないお客様も自由に楽しんで欲しい1日です。

- 次の時代の茶の湯を考える
 - 一日喫茶室だより
 - 特別寄稿 国際交流の茶の湯研修会／数寄屋のあれこれ
- 3月から5月までの茶華道情報／財団からのお知らせ

発行：公益財団法人 中條文化振興財団
〒760-0017 高松市番町2丁目1番12号
TEL (087) 826-3355 FAX (087) 826-2212
2020年春号 No.105 3月1日発行(季刊)

次の時代の茶の湯を考える

茶の湯ってなんだろう。財団の事業として貸し茶室の運営に携わることになって、ずっと考えてきました。歴史的にみても茶の湯の果たす役割は、時代やその時々のお担い手によって大きく変化しながら、現代まで脈々と続いてきました。日本文化のタイムカプセルのようだという人もいます。時代の変化は、いつも突然に起こってきました。そしてまた、茶の湯は新たな時代の幕開けを迎えようとしている気がしてなりません。そこで改めて財団の茶室の役割についてご紹介したいと思います。

美藻庵と晴松亭について

財団の茶室は、どなたでもご利用していただける「貸し茶室」として、平成九年より運営を始めて二十余年が経ちました。現代では、本格的な数寄屋建築の茶室を、個人で建て、長く維持していくのは簡単なことではありません。公益財団の仕事として、多くの皆様にご利用していただくの使命と感銘ながら続けてまいりました。

美藻庵・晴松亭の建築は、後に金閣寺の方丈にある茶室・定足亭を建てられた京都の心傳庵・木下孝一棟梁にお願いいたしました。建築当時のコンセプトは、「茶事」から「大寄せの茶会」まで、対応できることでした。

神戸の震災以後の建築ですので、棟梁の要望もあって、屋根は軽く酸性雨にも

負けないチタン葺きですが、それ以外は、伝統的な数寄屋建築です。材料のほとんどは、棟梁の経験から厳選された自然素材だけで造られています。

「茶事」とは、究極のおもてなしとも言われるお茶会の形式です。主に小間の茶室で行われ、迎え付けから炭点前に始まり、懐石料理、濃茶席、薄茶席と約四時間におたる茶会です。五名前後の少人数のお客様をお迎えます。茶の湯者にとっては、これらすべてを一人で行えるようになることが修行の目的で、さらに茶事を百回やって一人前といわれるほど厳しい世界です

しかし現代では、お茶会といえば、「大寄せの茶会」が主流で、会場も大きな広間が使われます。戦後の茶の湯は、女性が中心の世界となり、お茶の人口が急激に増えたためと言われております。

茶席に入ると、お菓子が運び出されて

お抹茶をいただき、ご亭主と正客のやり取りを通して、設やお道具のお話を聞くというスタイルですが、言わば茶事における薄茶席の部分を沢山のお客様と共に楽しみながら勉強させていただくという形式が中心となりました。

財団では、大寄せの茶会の場合は広間か立礼席を使います。立礼席というのは板の間で、椅子に座ってお茶会ができる茶室です。

財団のお茶室は、三つの茶室とそれぞれにお茶会の準備のための水屋が付属しています。掛物を掛ける床は、玄關の待合を入れて五つ。釜を懸けるための炉壇は四つあります。それと、懐石料理などを作るための台所があります。

茶室の特徴について

小間の美藻庵は、四畳半台目席に台目三畳の鞘の間がついています。つまり全体で約七畳半のお茶室です。さらに茶室の庭を露地といいますが、露地には腰掛待合と、神社などと同じように茶室に入る時に手や口を清める蹲（つくばい）があります。どちらも茶事では欠かせない基本的なアイテムです。露地には外のトイレもあります。

茶室は、よく「市中の山居」と言われますが、街中に有りながら「山の奥に分け入ると小さな庵がありました」という設定で、露地が作られたそうです。この茶室独特の庭は、気ぜわしい日常の世界から非日常の世界に入るためのちょっとした仕掛け、とも言われています。

露地の手入れは専門の庭師さんが、年に三回から四回程度入りますが、茶会前日の細かい掃除は亭主の仕事となります。

茶事に限らず、十人くらいまでの小さい茶会でしたら、この美藻庵の茶室と露地だけでも十分お楽しみいただけます。また、蹲を使うとか、にじり口を潜って小間の席入りをするとか、普段できない稽古などもできます。

また、広間は八畳で、一間床と半間の琵琶床が付いています。この八畳での茶席は概ね十五名入れます。

続きの六畳は壁床です。仕切りの襖を





外すと十四畳の広間として使えます。これ約三十名の茶席となります。さらに障子を外して畳の廊下も取り込めば、最大四十五人くらいまでの茶席にもなりません。

立礼席は、栗のナグリの太い梁が印象的な船底天井で、広さは約十五畳です。

正面に小間の点前が出来る向切りの炉が付いた台目畳の点前座があります。床は台目幅で高さが一段上がります。大寄せの茶会の時には、ここが待合となることが多いですが、茶席として使う場合は二十名から三十名までの席となります。

自分の家で茶会を催すとなると、掃除など準備はかなり大変ですが、財団の茶室を利用されれば、必要な茶の道具を運び込めば、比較的楽で簡単に実現できます。

ご利用につきましては、全館使用の他、それぞれの部屋の個別使用も可能です。ただし個別使用の場合でも、茶事などで専用使用されたい場合は、全館使用の扱いになります。これもご相談ください。

茶室の活動状況について

現在の貸館利用の状況は、各流派の茶会や稽古場はもちろん、連歌講座、能や料理の教室として、定期的にご利用いただいております。

また、財団主催の各種講座として三友居さんの懐石講座。和菓子作り。書道教室。子供茶の湯教室。こちらも、随時受講者を募集しておりますので、気軽にお問い合わせください。

毎月第三火曜日に開催される「月に一度の喫茶室」はどなたでも気軽に茶室の体験していただく機会として好評です。

また、「五人様茶会」は、茶事の形式を借りて、濃茶席、薄茶席、点心席の三席構成を基本に少人数の茶会を開催しています。一席が五人くらいのお客様なので亭主側も意外にご負担は少ないと思います。もし茶席をやってみたいと希望される方は、随時募集しておりますので、ぜひ財団事務局までご相談ください。

夏は恒例の「茶の湯をさらに楽しむための夏期講座」は、全国から千家十職や茶の湯の研究者などをお招きしての勉強会を開催します。

プライベート茶会の勧め

毎年四月の連休前に玉藻公園・被雲閣で開催している「若人茶会と讃岐もの」は、新しい可能性を感じるイベントとなっています。高校生を主体とした茶席は、それぞれに若者らしいオリジナリティがあります。

ほとんどの子供達は初心者ですが、お茶会の基本の型をうまく利用して、自分たちの想いを表現してくれます。お点前やお運び、水屋と役割分担して、チームワークで乗り切ります。

この部分は恥をかくことを恐れてしまう大人とは、大きく違うところかもしれません。

お茶会というのは、見方を変えれば、音楽の演奏会や演劇の公演と同じく、ライブ的な表現の場でもあります。アート

の世界のインスタレーションに似たところもあると思います。

お茶会というものが、ライブ的に何かの思いを伝える手段であれば、上手くなるためには、少し経験が必要かもしれません。

お点前の稽古も大事ですが、それだけでは面白くなりません。せつかくお茶を習っているのですから、亭主として、小さくてもいいから自分のお茶会にトライしてみませんか？

茶人は数寄者とも言われますので、嫌なことはいなくてもいいのです。ひな祭りやお友達の誕生日など、楽しい趣向はいろいろと考えられますし、プライベートならお茶会を開くのに資格などは必要ありません。

また、高価な道具は買えなくても好きな道具を集めることは可能です。テーマに沿って道具を探すのは面白い体験になると思います。

よく亭主七分に客三分などと言われるのですが、茶席の亭主は実は楽しみが倍以上あるのです。茶の湯には、基本の型がありますから、それをベースに自分なりに色々と趣向を考えてみてください。

もし、ご希望があれば、具体的な茶室の使い方や、茶会の運営の仕方、料理の手配についても、ご要望をお聞きしながらアドバイスさせていただきます。茶の湯のおもてなしをイベントとして考えてみてください。何事も経験を重ねることが重要だと思います。

一日 喫茶室 だより



文化通心2002年秋号に「晴松亭で

お茶しませんか」と、九月より開催する毎月第三火曜日の喫茶室のご案内を掲載しました。月に一度の喫茶室のお誘いでした。大勢のお客さまをお迎えし続けての十八年間には、年を追っての入れ替えなどもありましたが、席を担当して下さるお茶の先生や社中のみなさま、お通いいただいたお客さまたち、運営に協力してくださったボランティアスタッフの方々、たくさんの人のご尽力がありました。改めてお礼申し上げます。

喫茶室を始めた頃、「喫茶店の点出みたいなものかと思っていたら、これはこれは、本格的な茶会、いたみいりました」との感想をもらされた方がいました。また逆に「本式の茶室で気軽に楽しませてもらった」と喜んで帰られたお客さまもいらっしやいました。二極的な表現は、とかく敷居が高いと倦厭されがちな茶事の雰囲気崩すことなく、初心者の方々にも親しんでいただきたい意図が叶えられたようで安心しました。

茶室は京都の数寄屋研究所心傳庵・木下孝一棟梁が「不特定多数の方々がお使いになる」点も勘案した苦心のたまもので、まさに、月毎に表、裏、武者小路の三千家を主軸に諸流派の先生方の濃茶、薄茶だけでなく、煎茶や中国茶、珈琲、紅茶、ハーブティーなど専門の先生方の茶席が混じります。担当者の思い思いのしつらいに、茶室は思わぬ表情を見せてきました。

お迎えは玄関の引き戸を少し開けた手がかり(ウエルカム・どうぞの印し)の小さな隙間から始まります。玄関わきの「初めての方もお気軽にお入りください」の一文を添えた案内板を見て「本当によろしいでしょうか」と通りがかりの女性が入ってこられたことがありました。息子夫婦の新居を見に来た散策中のフリー客ですと遠慮がちでしたが、とても楽しくて優雅なひとときをありがたうと帰って行かれました。

高齢で長歩きが頼りなくても、車を降りるとすぐに露地もある本式の茶室に通れてありがたいとか、正座できなくても親切な座敷椅子のおかげと、利便性を感じてくださるうれしい声もいただきました。受付ではお客さまとお茶談義もしばしば。話が敷衍して、座れないからお茶を止めるのではなく、こうすれば続けられる、続けたいというお茶好きの人から、家では座卓の上に長板飾りにまとめた道具でお茶してるので是非お遊びにと

誘われたことがありました。立つたり座ったりが不自由でも自分なりのお茶(旦那さんの趣味の自作・ステンドグラスのスタンドは夜の手燭がわり)を楽しんでいる素敵な女性でした。



通常、美藻庵で濃茶、立礼で薄茶、広間でセルフサービスの飲み物、昼時にはここが点心(食事)席に変わります。各席の床には軸や花が気遣われ、茶席でのお道具組など先生方のおもてなしは毎回みなさんから感謝されているのは申すまでもありません。ですが、前日からのこしらえや後片付けの大変さを厭わずに「亭主七分の愉しみ」と、もてなす苦勞もお茶の楽しみとさりとおっしゃる茶人の精神、本当に、尊敬深く感じ入っております。

ここでちょっと、例えば、一月の喫茶室紙上探訪と参りましょうか。上がり待合の床に餅花、広間の床には日陰の蔓とお正月らしくした飾りを、次の席を待つ人たちが懐かしがったり、京風を珍しく眺めながらセルフのエスプレッソや紅茶を楽しんでおられます。露地を通して美藻庵に移り、作法通りの拝見が終って席がおさまりますと、主菓子(花びら餅)、亭主の挨拶、濃茶のふるまいがすすんで、侘茶の趣向の掛物や道具が披露され、お茶の醍醐味を味わわ

せていただきました。

立礼席では新年を祝ったおめでたい画賛の軸を拝見、七宝の皆具で点てた薄茶に供された干菓子には、味噌餡を挟んだ麩焼のお多福さん。静かな席中が亭主の話ではずみ、主茶碗や絵変わりの数茶碗でお茶を運ぶ半東さんの動きで空気が和みます。

お昼の点心は予約制、この日は、寒い時を氣遣った温かな料理を用意しました。食事中に気の置けないお仲間たちの話に花が咲き、ここの帰りにどこへ行くとかとか別の会のお誘いなど、たちまちに友達づくりの場になっていきます。一碗のお茶がかもす親しみの連鎖でしょうか。

ざっとご紹介でしたが、一日喫茶室のエピソードの数々、またの機会にお聞きいただきたいと存じます。



国際交流の 茶の湯研修会

2019年11月27日、タイのチェンマイから産婦人科医師、助産師等研修生、ケニアからのインターン生など総勢17名が、中條文化振興財団にてお茶席体験をさせて頂きました。これはJICA四国による「草の根技術協力事業」の一環で、香川県、香川大学、メロディ・インターナショナルにより、ここ数年実施されています。チェンマイ県はちょうど日本の京都にあたる古都で、チェンマイ大学と香川大学は長く姉妹校提携を結んで様々な交流を続けてきました。研修生は香川県内の遠隔医療先進事例見学や香川大学医学部にて様々な研修を受けます。しかし、せっかくの来日なので、「日本文化体験」として毎回お茶席を体験してもらっています。

国際線のお土産コーナーで見られた方も多々ありますが、最近のタイを含む東南アジアは「抹茶ブーム」で、抹茶関連のスイーツやドリンクで溢れています。ただ、それらは全て甘いものばかりで、ペットボトルの緑茶やジャスミン茶まで砂糖入りでびっくりします。

本体験では、本来のお抹茶の苦さと、甘いお茶菓子という取り合わせを体験し

てもらいたい、そのブームの源流に触れてもらいました。亭主の中條事務局長からのお茶室や茶碗、茶道具の説明などを、日↓タイ通訳さんがとても詳しく通訳していただき、研修生の皆さんはひとつひとつに感嘆していました。初体験の人が多く、最初は作法に戸惑っていましたが、すぐにお茶の世界に入れたようでした。多忙な研修で「微笑みの国タイ」の皆さんは少々疲れ気味でしたが、このお茶席を体験して、ゆったりとしたペースを取り戻せたようです。終了後も感想で盛り上がり、SNSに投稿するなど、良いお土産になったようです。



今後、東南アジアや南太平洋諸国からの研修の際は、お茶席体験を続けていきたいと思っています。

茶室の畳 ①

一口に本格的な茶室といっても、現代の和室とどこが違うと思いますか？その答えは、実に寸法にあります。1959年に日本独自の寸法の基準であった「尺貫法」が廃止されて、それ以後の建築の世界は大きく変わりました。

畳は江戸間とか京間とか地方によって寸法が若干違いますが、利休さんがいた時代の寸法は、京間の六尺三寸です。利休さんは、お点前や作法よりも道具の寸法や置き合わせにこだわった人だとよく言われます。お茶の世界でよく聞く、いわゆる利休型というのは、利休さんの持ち歩いていた寸法録というものを基準にしてみました。

お茶の稽古でも道具の置き合わせをするのに畳の目数で教えられます。二目という約一寸です。当時の一尺というのは30・3センチです。一寸というのは3・03センチです。

茶室の畳の長い方は190・89センチ。現在の基準は180センチです。畳の短い方はその半分の95・445センチと90センチになります。畳の目数は六四目です。このわずかな寸法の差が六畳とか、八畳になると大きな違いになってきます。実際の畳はきちつと

敷き詰めるためにこの数字よりも少し大きめに作ります。隙間ができるのは困りますから畳同士が押し合うようにきっちり嵌め込みます。

「立って半畳、寝て一畳、二人仲良く四畳半」なんて、粋な言葉も残っていますが、和室が少なくなった今でも日本人が持っている畳の寸法感覚というものは残っています。高層マンションのパンフレットでも5Jとか表記されています。それで広さのイメージはしやすいのですが、実際に行ってみると一畳辺りの寸法は、思ったより小さいことが多いです。

畳屋さんは、今は物件ごとに特注でオーダーされるので、大変なことになっていきます。昔ならその地域の決まった寸法の畳を毎日生産していれば良かったのに、今は違います。

高松城の披雲閣や栗林公園の掬月亭の畳は、昔の寸法で作られています。戦前の建物はきちんと寸法が守られていますのでお茶するのに適していますが、見た目にはわかりにくいですが、利休型の茶道具を違和感なく置き合わせるには、この畳の寸法が必要です。



(つづく)

甘いお灸に癒されて

金刀比羅宮参詣のお土産の代表格である『灸まん』をご存知ですか。その名のとおおり、お灸(もぐさ)の形状で、頂上部が丸く盛り上がった、やや円錐形に近い形をしている、鶏卵の卵黄を使った餡のお饅頭です。

『灸まん』は1765年に「麻田屋久八」として金刀比羅宮参道の石段に軒を連ねた旅籠だったそうです。その昔東京の小金井小次郎という侠客がこの旅籠に泊まり、麻田屋の女中衆に当時麻田屋の名物として知れ渡っていた「金毘羅灸」を据えるよう所望した。小金井は非常に美男子だったため灸を据えるのに女中衆で取り合いになったといえます。灸を据えることになった女中が特別柔らかい灸を据えたため、小金井は「こいつは甘めえお灸だ」とは言ったものの、非常にこの灸が気に入ったらしく、以後「金毘羅灸」はますます評判になりました。

麻田屋の六代目の主人が屋号を「石段や」とし、旅籠より茶店に商売替えをする際、この逸話通りお灸の形をした饅頭を作り始めたと言います。現在でも石段や本店の建物は金刀比羅宮参道において最も古い建築の一つです。

「灸まん」は2002年に熊本市で開かれた第24回全国菓子大博覧会において、最高賞である名誉総裁賞を受賞しているそうです。



お茶の風景(7)

ガラスの茶室

大都会・東京を訪れるたびに新しい顔を見せてくれます。六本木の黒川紀章設計による国立新美術館には何度も行ったのですが、この見慣れた風景が一変して、さながら新しい顔といった印象がありました。

正面入口前の広場に展示されていた「吉岡徳仁ガラスの茶室・光庵」は、緩やかに波打つ美術館の硝子外壁をバックにして一体感をかもし、建物の表情をも変えて見せていたわけです。

硝子の断面がほのかに緑を含んで見える以外はすべて透明な寄棟作りの茶室は、無駄を削ぎ取った簡素なわびさびの極みを現代風に出現させた佇まい。五年ほど前、京都・將軍塚青龍殿の屋外大舞台で見た光庵は、初夏のまぶしい陽光の中で古都を見下ろしていましたが、今回は晩秋の夕暮れ時、都会の宵闇に溶け込んで見えました。

年月を経た巡回展のめぐりあわせ。趣の違ったそれぞれの「光庵」が楽しめました。



財団行事予定(3月~5月)

3月

◆ 3月懸釜「令和の春を寿ぐ」

日時 3月1日(日)

処 美藻庵 晴松亭(当財団茶室)

濃茶 武者小路千家家元後嗣 千宗屋宗匠

薄茶 懐古堂 佐藤文彦

● 上記のお茶会は中止となりました。

大変申し訳ありませんが、昨今のコロナウィルスの問題で関東方面のお茶会が軒並み中止となっております。

再度日程を組み直したいとのことですが、既にご入金をいただいております皆様には、ご返金させていただきます。拝

◆ 書道教室 毎月第1・第3金曜日

森本義人先生

3月6日(金)・20日(金) 午前10時~12時

◆ ヤングヤング(子供茶の湯教室)

山下純子先生

3月7日(土)・14日(土) 午後1時~

◆ 和菓子講座 毎月第2金曜日

高橋初乃先生

3月13日(金) 午前10時~12時

◆ 月に一度の喫茶室 毎月第3火曜日

3月17日(火) 午前10時~午後3時迄

自由なお時間にお出掛け下さい。

ランチは要予約です。

4月

◆ 書道教室 森本義人先生

4月3日(金)・17日(金) 午前10時~12時

◆ 懐石講座 三友居 山本勝先生

4月7日(火) 午前11時・午後3時

◆ 和菓子講座 高橋初乃先生

4月10日(金) 午前10時~12時

◆ ヤングヤング(子供茶の湯教室)

毎月第2・第4土曜日 山下純子先生

4月11日(土)・25日(土) 午後1時~

◆ 4月月釜 五人様茶会

「令和2年も茶友でお茶を楽しみましょう。お待ちしております。」とのメッセージを添えてご案内いたします。

日時 4月12日(日)

処 美藻庵 晴松亭(当財団茶室)

濃茶 武者小路千家 山本 亘

薄茶 表千家流 井川和彦

茶席 濃茶・薄茶・点心席

会費 5,000円

入席時間ご案内

(各席2時間15分を予定)

第1席 A席・B席 9時

第2席 A席・B席 10時30分

第3席 A席・B席 11時15分

第4席 A席・B席 12時45分

第5席 A席・B席 14時15分

◆ 月に一度の喫茶室 毎月第3火曜日

4月21日(火) 午前10時~午後3時迄

自由なお時間にお出掛け下さい。

ランチは要予約です。

◆ 第6回 あ・うんの数寄

若人茶会と讃岐もの

4月26日(日) 午前9時~

5月

◆ 書道教室 森本義人先生

5月1日(金)・15日(金) 午前10時~12時

◆ 和菓子講座 高橋初乃先生

5月8日(金) 午前10時~12時

◆ ヤングヤング(子供茶の湯教室)

山下純子先生

5月9日(土)・23日(土) 午後1時~

◆ 月に一度の喫茶室 毎月第3火曜日

5月19日(火) 午前10時~午後3時迄

自由なお時間にお出掛け下さい。

ランチは要予約です。

安部流洗心会四国支部 TEL (0877) 86-3442

4/12 栗林公園月釜 席主：安部流四国支部 掬月亭
前売700円・当日800円 9:00～15:00

(一財)小原流高松支部 TEL (087) 886-7851

5/3、4 小原流高松支部創立60周年記念花展“花・輝く”
高松シンボルタワー1階展示場
700円 10:00～18:00(4日は16:00まで)

表千家同門会香川県支部 TEL (087) 845-4638

~~中止 3/15 玉椿象谷忌茶会 席主：美澤宗包
玉藻公園披雲閣 1,000円 9:00～15:00~~
5/10 香川県支部創立記念茶会 席主：富田宗久、香川宗清
総本山善通寺 1,200円 9:00～15:00
5/17 香川大学医学部茶道部40周年記念茶会
西徳寺 500円 9:00～15:00

香川大学表千家流茶道部 TEL 080-2897-3524

2/16、3/15、4/19
月釜 龍光塾 500円 9:30～14:30

華道一生本流 TEL 090-5141-0750

5/2～3、5～6
華道一生本流いけばな展 香川県文化会館
前売400円・当日500円 9:00～16:00(2日のみ10:00～)
呈茶席 500円 9:30～15:30(2日のみ10:00～)

琴平月釜茶道会 TEL (0877) 58-9551

5/31 松尾寺月釜 席主：長谷川千代子(表千家)
松尾寺 500円 9:00～15:00

茶道裏千家淡交会香川支部 TEL 0877-33-3526

~~中止 3/1 善琴分会 月釜 席主：香州会
善通寺樟蔭軒 500円 9:00～14:00~~
~~中止 3/22 香川支部利休忌 席主：善琴分会
総本山善通寺 2,200円 10:00～15:00~~
3/29 坂出分会 月釜 席主：馬場宗則
翠松閣 500円 10:00～14:00
4/29 瀬戸大橋展望茶会 席主：坂出分会(A)
坂出番の州公園 刻月亭 300円 10:00～15:00
4/29 若葉茶会 席主：観音寺教授会
琴弾公園浴日館 無料 9:00～14:00
5/3 坂出分会 月釜 席主：中村宗智
多度津藩家老屋敷 林求馬邸 500円 10:00～14:00
5/10 バラ園茶会 席主：坂出分会
番の州公園バラ園 300円 10:00～15:00

茶道裏千家淡交会高松支部 TEL (087) 841-0605

4/5 高松支部 月釜 席主：支部・幹事
大西・アオイ記念館
前売700円・当日800円 9:30～15:00
6/7 高松支部 月釜 席主：國方宗絢
大西・アオイ記念館
前売700円・当日800円 9:30～15:00

茶道石州流宗家 TEL (087) 881-2858

5/3～4 たかまつ春のまつりフラワーフェスティバル
席主：久保宗照 中央公園 450円 10:00～15:00
5/5 玉藻公園一般開放記念 席主：久保宗照
玉藻公園 400円 10:00～15:00

石州流讃岐清水派石州会 TEL 090-2826-9229

5/31 大西・アオイ花茶会 席主：片山宗美
大西・アオイ記念館
前売700円・当日800円 9:00～15:00

東讃茶道懇話会 TEL (087) 898-0391

4/5 月釜 席主：表千家 萌生会
池戸西徳寺 600円 9:00～15:30

武者小路千家香川官休会 TEL (087) 851-2258

~~中止 3/1 香川官休会月釜 席主：みなづき会
無量寿院 700円 9:00～15:00~~
5/4 香川官休会月釜 席主：小池公江
無量寿院 700円 9:00～15:00
5/4 丸亀お城まつり 協賛茶会 席主：溝渕守保
丸亀市生涯学習センター2F 600円 10:00～15:00
5/17 香川官休大会 席主：香川官休会
中條文化振興財団 1,000円 9:00～15:00

高松市香南歴史民俗郷土館 TEL (087) 879-0717

~~中止 3/15 由佐城月釜茶会
席主：三好宇太郎(武者小路千家)
第2研修室(和室) 500円 9:30～14:30~~
4/19 由佐城月釜茶会
席主：浅野宗美(裏千家川原宗津社中)
第2研修室(和室) 600円 9:30～14:30
5/17 由佐城月釜茶会
席主：勝野宗里(裏千家熊野宗翠社中)
第2研修室(和室) 600円 9:30～14:30

大西・アオイ記念財団 TEL (087) 880-7888

5/31 大西・アオイ花茶会 席主：石州流讃岐清水派石州会
前売700円・当日800円 9:00～

中條文化振興財団 TEL (087) 826-3355

4/12 4月月釜 五人様茶会 5,000円
濃茶：武者小路千家 山本亘
薄茶：表千家流 井川和彦
以上の茶会はいずれも点心席を含みます。
詳細は、財団行事予定をご覧ください。

「おいでまい香川」では、
香川県内の様々なイベント
情報を随時更新中！
<https://oidemai.kagawa.jp/>



4月26日開催!

第6回 若人茶会と讃岐もの

連休前の日曜日。今年も若人茶会を玉藻公園の披雲閣を舞台に開催できることとなりました。県内の高校茶道部の皆さんが楽しいお茶会を企画してくれます。讃岐ものは、披雲閣の大書院に10種類の伝統工芸の体験型ワークショップのブースで、それぞれにお楽しみいただけます。



茶席

- 石田高校茶道部(武者小路千家)
- 高松高校茶華部(武者小路千家)
- 高松商業高校茶道部(武者小路千家)
- 高松西高校茶道部(裏千家)
- 三木高校茶華道部(裏千家)
- 大内英生(三友堂・和菓子作り体験)

讃岐もの(ワークショップ)

- 大井建具店(組手障子)
- 香川県うちわ協同組合連合会(丸亀うちわ)
- 香川県漆芸研究所OB会(香川漆芸)
- 紀太理平(理平焼)
- 讃岐かがり手まり保存会(讃岐かがり手まり)
- TERASU(讃岐提灯)
- 豆花(菓子木型)
- 山西商店(志度桐下駄)
- 結納センターつちだ(水引工芸)
- ラーテルグリーン(盆栽)

(五十音順)

「晴友会」更新のお知らせ

友の会「晴友会」の更新時期が参りました。更新をご希望の方は同封の郵便振替用紙にて年会費3,000円をお振込み願います。

期間

2020年4月1日～2021年3月31日

編集後記

当財団の貸茶室事業があることを、皆さんはもうご存じでしょうか？

茶道全般はもちろん、コンサート、小サロンの集まり、趣味の会やお稽古の場として、今まで様々にお使いいただきました。当然、お茶室ですからそれなりに使い方に限りはありますが、それも茶道文化に触れていただける良い機会にもなるのではないかと思います。

また、御気軽に財団にお越しいただけるようにと「月に一度の喫茶室」も開催し、いろんなお茶を楽しんでいただけます。すでにご存じの方々は是非、友人知人をお誘いください。お茶室で過ごすうちに「借りてみようかな?」と思われるかもしれません。ご相談ください。

「声・情報お寄せください」

〒760-0017

高松市番町二丁目一十二

公益財団法人 中條文化振興財団 編集部

TEL (087) 826-3355

FAX (087) 826-2212

info@chujo-zaidan.or.jp